



# Pure 純 No.202 Pacific パ Mar.2019

純パの会会報『純パ』第202号

2019年3月23日発行／発行：純パの会

## 大倉徹也さんのこと

明石 玲子

昨年の12月に宮田親平さんの葬儀に参列した時、元代表の大倉徹也さんのことを思い出した。「純パの会」を離れられてからの動静は伝わってこない。それから約2か月後の新聞の訃報欄で大倉さんの名前を見ることになってしまった。肩書は放送作家。著書として「わが愛しきパ・リーグ」が紹介されていた。年齢を見たら宮田さんの1歳下だった。私の入会のきっかけは朝日新聞「声」欄に載った佐藤光房氏の「純パの会」に関する文だった。新聞社経由で氏に手紙を出したところ返事が来て、大倉さんの連絡先を教えてくださいました。早速手紙を出したらすぐに大倉さんから入会案内が送られてきて入会の運びとなった。ラジオで耳にする「大倉徹也」さんだとは知らなかった。入会してからお目にかかったのは会報発送に総会・納会だった。私の印象はマメな人、書くことが苦にならない人というものだった。会報にも毎回長文が掲載されていた。あのころの会報発送はアナログそのものだった。糊とスポンジが必需品。場所は渋谷にあるマンションの10階の「八雲クラブ」(都立大学同窓会)の部屋を使わせてもらっていた。封筒に宛名シールを貼り、会報を入れ、糊付けをして封をする。効率よくやる工夫を考えながら手を動かしていた。それが終わると切手貼り。重量によって料金が違うこともあったりしたものだ。切手を手分けして貼るのが大変だった。スポンジに水、皿に水、舐めて貼るなど原始的なものである。終わると事務連絡などあり部屋を後にする。帰途、手分けして周辺のポストに無理やり投函していた。大倉さんはそ

んな作業を見守りながら話をしたり、会の仕事をしたりしていた、と思う。

入会時の代表であり事務局長だった大倉さんが私には会についても、野球についても分かっていただけではない。大倉さんは阪急ブレーブス、西本幸雄さん、イチローのファンだったと思う。ライオンズの堤オーナーはお嫌いだった。ライオンズの悪口？をいう時には私に「すみませんね」と気を使ってくれたりした。

TBSラジオ「小沢昭一の小沢昭一的ころ」で月1回くらいの割合で大倉さんの筋書き(脚本)の番が回ってくる。野球やスポーツ、懐メロなどの話題が楽しかった。いつのことだったかNHK「ニューイヤール・オペラコンサート」の最後に「大倉徹也」の名前を発見してその造詣の深さを改めて知った。多岐にわたっての知識をお持ちの方だったと思う。

大倉さんはワープロは使われていたようだが、メール、パソコンには拒否反応を示しておられた。そして「純パの会」から退かれてしまった。お世話になったお礼かたがた手紙を出したところ、返事を頂き「会とは縁がなくなつたのでご放念ください。連絡もしないでください」と言われてしまい、今日に至った。

大倉さんは頑固だったな、その一徹を貫いた一生だったなとしみじみ思う。

業界の話も聞かせていただいたり、私には悪い思い出はない。

大倉さんありがとうございました。  
ご冥福をお祈りしております。